

保存版
チェックポイント!!

始めよう! グリーンカーテン

つくり方 設置方法 流しさ
マニュアル

ゴーヤー編

7日 開花、結実

固形の化成肥料を花が咲いて結実の頃から1ヶ月に1回与えましょう。液体肥料の場合は1週間1度、水やりの水の代わりに与えます。液体肥料の希釈値は製品の用法に従ってください。

できた!!

8日 追肥する

市販の植物保護液や活力剤が最適です。

防虫する

市販の植物保護液・活力剤が最適です。

6日 発芽、成長

ゴーヤーは根から多量の水分を吸い上げるので、晴天の日は1日に1回、朝夕夕方にたっぷり与えます。

水をやれる

プランター植えの場合は、下の穴から水が出てくるまで十分に与えてください。

防虫する

市販の植物保護液・活力剤が最適です。

5日 プランターに植えかえ

プランターに移す

本葉が2〜3枚出たら、元気のいいものを選びます。根が傷むので引き抜かず、根元をカットしましょう。

間引き

本葉が2〜3枚出たら、元気のいいものを選びます。根が傷むので引き抜かず、根元をカットしましょう。

幅60cm以上

4日 土をつくる、種をまく

種を準備する

種の外皮は固く水が浸透しにくいので、種をペットボトルに入れシャカシャカ振ったり、そのまま2時間ほど水に浸しておきます。

ポットに植える

最初にポットで発芽させ、元気のよいものを選んでプランターに植え替える方法があります。種を土の上に置いて土を1cmほど被せてから水をあげましょう。

幅60cm以上

肥料の成分

N(チッソ)・P(リン酸)・K(カリウム)の順に数字で表されています。「8-8-8」であればそれぞれ各8%配合されています。

肥料の表示の意味

8	8	8
N	P	K

成長の目安

成分	効果	追肥で多めに
N 窒素	茎や葉を茂らせ	葉肥(はごえ)
P リン	花やツボミ、実の育成を促します	最初多めに
K カリウム	根の育成を促します	追肥で多めに
石灰	カルシウムです	根肥(ねごえ)
マグネシウム	葉緑素をつくり新陳代謝を促します	

肥料の種類と効力

植物の三大栄養素には、葉を大きく育てる葉肥の窒素、実の育成を促す根肥のリン酸、根の成長を促す根肥のカリウムがあります。これらをゴーヤーに適した配合にした専用の肥料がホームセンター等で販売されています。

防虫溶液の種類

不酢液、竹酢液、木灰や竹炭を作るときに出る煙を液化したものと、酢酸やフェノール類が主成分。

ツルを傷めない結び方

ツルをネットにかかるときは、紐を8の字にして結び、土を軽くくっつけておきましょう。

土の酸性・アルカリ性

ゴーヤーは酸性土を好みます。pH値が5.5〜6.5が適当です。

配合をしてみる

ゴーヤーに適した土を作るには、赤玉土5割、黒土2割、ピートモス、パーミキュライト、腐葉土をそれぞれ1割のバランスで配合してください。

グリーンカーテンで涼しく暮らすアイデア!

緑被率70%を目指そう

グリーンカーテンで涼しく過ごすために大切なのが、緑被率を高めることです。理想的なのは、半分以上が葉で覆われている緑被率70%以上の状態。葉がしっかりと覆い茂ることで、直射日光が遮られることにもつながります。緑被率70%を目指して成長を促すためには、日ごろのお手入れが欠かせませんが、水・肥料を適切に与える以外にも、摘心とつるの誘引が大切です。

よしず・すだれを併用しよう

場所によっては開放的に窓を開けておくことができなかったり、家の中が見えることに抵抗を感じる人も多いのではないのでしょうか。そんな時はグリーンカーテンとよしず、すだれを併用しましょう。外からの家の中が見えにはならず涼しく過ごせるだけでなく、気温が上昇し暑くなる梅雨明けまでに日かげを作るというメリットがあります。窓を覆い隠すようによしず、すだれ、グリーンカーテンを設置することで、夏場はとても気持ちよく過ごせます。

葉の繁茂状況と緑被率の関係

- 0% 葉が全くない
- 20% 葉が少ない
- 50% 半分くらいが葉で覆われている
- 70% 半分以上が葉で覆われている
- 90% 大部分が葉で覆われている

出典：神奈川県環境科学センター編「壁面緑化チャレンジ! ガイド」を一部改変

設置方法は?

- ネットは10cmの網目を選ぶ**
園芸ネットは10cmの網目サイズがお手入れしやすく、葉が茂っても程度風が抜けやすくなります。
- ネットはピンと張る**
ネットがまっすぐにピンと張られているとゴーヤーが絡みやすくなります。張り具合は時々チェックしましょう。
- 日影を多くしよう**
グリーンカーテンは、窓だけでなく、窓の周囲の壁や地面にも日陰を作り、熱を発生させる面をカバーするのが涼しさのコツです。

◎つるが伸びる前にネットを張る。

軒下に取り付けるタイプ

軒下や庇(ひさし)に丸金具(ヒートン)を取り付け、ネットを張る竿を吊る方法があります。金具は軒下の奥のほうに取り付けることで、つたが屋根に伝うのを防ぐことができます。

棒組み自立タイプ

地面に杭を打って支柱を括り付けます。窓からの距離を余裕持たせ、パーゴラ風に天井も緑のカーテンで覆えば、日影を多く作ることができます。

移動タイプ

キャスター付きの組み立て式に支柱となる竿を固定する方法です。下の段にも植物を置けば直射日光を防ぎ、かつ重心を下にすることで台が安定します。可動式なので洗濯ものや布団干しも解決し、時間による日差し対策もできます。

固定タイプ

ベランダの床と天井につっぱり式のポールで支柱を作り、竿受け(ジョイント)は引っ掛け型ではなく、穴を通すものや固定できるものを利用しましょう。

★イラストは物干し竿受け(両端1対)の耐荷重が約10kgのつっぱり式ポールを2セット用意して、180cm×90cmのグリーンカーテン(約15kg)にをつくすることを想定しています。台の上にゴーヤーを植えたプランターを置き、その下にも植物を置くことで手廻り台の下側からの直射日光を防ぐことができます。

涼しさをのこす? グリーンカーテンの楽しみ方

日射を遮る

日射が持つ熱エネルギーを約80%カット!

窓からの日射の侵入を防ぐ

夏の直射日光による室内の温度の上昇を防ぐには、葉の十分に茂ったグリーンカーテンが効果的です。日射の熱エネルギーの約80%をカットする遮蔽効果があります。すだれの遮蔽率が50〜60%、高性能の遮断ガラスでも55%程度。いかにグリーンカーテンが優れているかがわかります。

放射熱を防ぐ

夏の日なた 頭への直射日光や地面からの照り返しにより、表面温度が約45℃を示している。

家のまわりの表面温度を抑える

暑さ対策は直射日光だけではなく、強い日射を受けて表面温度が高くなった窓付近の壁や地面などからの熱が放出されるのも暑さの原因です。この放射熱により、室温以上に体感温度が上昇し、さらに暑さを感じるようになります。そのため、グリーンカーテンの張り方を工夫して壁や地面も日差しから遮ることで、放射熱の発生と侵入を効果的に抑えることができます。

日かげ

グリーンカーテンにより、壁、ガラス面への直射日光を遮ることと地面の放射熱を緩和することで、体感的に涼しく感じることが見て取れる。

苦瓜

沖縄では、「ゴーヤー」と呼んでいます。ツレインシと呼ばれるゴーヤーは、沖縄や九州南部、群馬県などで栽培され、独特の苦みがあるのが特徴で、苦味成分は胃液の分泌を促進して食欲増進や肝機能を高め、血糖値の低下にも効果があるとされています。

自分でできる、夏を涼しく過ごす工夫!

家の外の工夫

室外機周辺への直射日光をさけるグリーンカーテン

すだれ

家中の工夫

- 夏場に涼しい色や素材に衣替え
- 風通しを良くする
- 断熱フィルムを窓に貼る
- エアコンフィルターの掃除

全国地球温暖化防止活動推進センター
<http://www.jccca.org/>
「省エネを夏を涼しく過ごす工夫」について詳しい情報は上記URLを参考にしてください。

【注】●ネットの張り方のイラスト、説明は参考例です。実際の形状とは異なる場合があります。取り付けの建物、庭等の条件を判断して実施してください。また、ネット取り付け時には高所での作業になりますのでご注意ください。集合住宅のバルコニーでの設置条件は管理組合等でご確認ください。●物干し竿、つっぱり式ポール等の本来の使用用途と異なるものについては商品添付の取扱説明書をよくお読みの上、荷重等に注意して自己責任の上で使用ください。特につっぱり式ポールは固定場所の強度を確認し、設置後も定期的に確認をすることが必要です。